



巻頭言

健康・スポーツ科学センターの任務と展望

健康・スポーツ科学センター所長 持田 明子

心身の錬磨による人間性の十全な開花が真に平和な社会実現の基盤にあることは言を俟ちません。

近代社会が高度の利便性を追求してきた結果、地球環境の劣悪化など、かつてない深刻な問題にわれわれは直面し、その緊急な解決と、21世紀の人類のために新しい指導原理の提示が求められています。

こうした時代状況の中で、大学教育に改革が強く期待され、創造性を涵養する基盤教育の強化、学部一貫教育の整備充実、大学院重点化が進められるに至りました。

本学にあっても、この方面での改革が着実に実施され、その一環として平成10年4月、国際文化学部部に所属していた健康管理科目教室と体育センターを統合し、健康・スポーツ科学センターが発足しました。

本センターは、

- ①健康・スポーツ科学に関する教育・研究
- ②学生・教職員のスポーツ活動および生涯スポーツの振興
- ③学生・教職員の健康の維持増進

を主たる目的としています。さらに、「地域に開かれた大学」を大きな柱の一つとする本学の方針にのっとり、生涯スポーツの振興を通して直接的な社会貢献を目指します。

かって必修科目として全学生に課せられて

いた「体育講義・実技」は現在、多くの学部で選択科目となっていますが、心身の健康を維持増進することが、健全な社会生活を送り、社会貢献を果たす上での第一条件であることに変わりはありません。

また、スポーツの国際化が進み、世界大会が盛んに開催される今日、わが国が優秀な成績をおさめ、その分野で指導的地位につくことができれば、社会全体に明るさと自信と活力を与えることになりましょう。

本センターは教育研究部門及びスポーツ科学部門の2部門で発足しましたが、こうした目標を達成するために、健康管理科学部門を加えた3部門での構成を目指しています。

21世紀における大学は、創造性を高める教育と、創造性の高い研究成果によって評価されましょう。

本センター独自の教育・研究の深化に努力すると同時に、全学部のご協力をいただきながら、人間環境の保全、介護福祉、生涯教育など、新機軸の学際領域を開拓し、成果をあげてゆくことで本センターの新しい展望が開けることと思います。

教育・研究の成果を学内外に発信する「健康・スポーツ科学研究」の刊行にあたりまして、皆様方のご指導を心よりお願いいたします。